



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ <http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>

全労連青年部第32回定期大会開催!!



スローガン

声をあげなきゃもったいない！青年が声をあげれば変えられる！

今こそ憲法を生かして、将来に希望をもち、安心して働ける社会に！

～多くの仲間を迎えて最低賃金大幅引き上げ、全国一律最賃制度を実現しよう～

全労連青年部は、9月28～29日に第32回定期大会を全労連会館2Fホールにて開催しました。代議員・特別代議員・傍聴を含め9単産20地方組織から青年が集まり、全体で69人が参加しました。

部長・書記長選出！新体制でさらに運動を進めよう！

今大会の中で行われた全労連青年部役員選挙では、空白だった部長・書記長を選出することができました。部長には日本医労連の保科雄治さん、書記長には愛媛労連の稲葉美奈子さんが就任し、新任6名を含む12名の役員が選出されました。新任役員のあいさつでは、ともに支え合い、全国の青年と一緒に奮闘する決意を表明しました。



新任部長・保科雄治さん(左)と
新任書記長・稲葉美奈子さん(右)

部長・書記長誕生！



4つの柱の方針提案と最低賃金に関する学習会

1日目は、阿部のぞみ副部長の開会あいさつ、森慧佑書記次長の主催者あいさつでスタートし、全労連・野村幸裕事務局長、日本原水協・前川史郎全国担当常任理事から来賓あいさつをいただきました。続いて、弓田盛樹書記次長が議案提案を行い、19年度の新たなスローガンのもと、「働き続けられる労働条件を求めて声を上げよう」「平和憲法を守り戦争する国づくりをストップさせよう」「学び、つながりを活かし、組織拡大・強化を進めよう」「青年が将来に希望を持てる政治に転換を」の4つの柱を基本にした運動方針が提案されました。全体討論ののち、最低賃金に関する学習会を行いました。静岡県立大学短期大学部準教授・中澤秀一先生を講師に、全国でとりくんだ最低生計費試算調査からみえる最低賃金のあり方について学びました。中澤先生は「すべての労働者の代表として、社会的闘争として最賃闘争に奮闘していただきたい」と参加者にメッセージを送りました。



弓田書記次長による議案提案

各地で行動！時にはユニークに。誰もが人間らしく生きられる社会へ



学習会で講演と報告に耳を傾ける参加者たち

フロア発言では、愛労連青年協の青木俊樹さんが「最低生計費調査をきっかけに青年協の中でとりくみが広がり、毎年最賃生活体験にとりくんだり、ユーモア溢れる寸劇や最賃生活のライフシミュレーションができる“最賃すごろく”でアピールしたりと積極的に活動している」と報告。兵庫労連の西村貴史さんが「街頭で最賃に関するシールアンケートにとりくみ、巷の声を集めた。青年実行委員会にも街頭宣伝をやろうと呼びかけた。最賃Tシャツをつくりアピールしている」などと報告しました。

講演のあとは青年からの報告として、愛媛労連青年部部長の山内佑樹さんが「青年の声を届けるために今年も最低賃金審議会に意見書を提出し、意見陳述をした。青年部でもさらに学習を深めている」と報告。続いて大阪労連青年部部長の河合成葉さんが「はじめて最賃生活体験にとりくんだが、自分の中で問題意識が広がり、得るものがあつた。人間らしく生きるために社会のあり方を変える必要がある。今回は個人のとりくみだったが、青年部としてとりくみ共有したい」と報告しました。続くフ



愛媛の最賃運動を報告する山内さん

明日から何ができる？分散討論で交流



自分たちにどんなことができるかグループメンバーで模索

学習会のあとは7つのグループに分かれて分散討論を行い、学習会の感想や、最賃に関する運動のほか各地の運動のとりくみや、活動・職場の悩み、帰ってからやってみたいことなどについて交流しました。「自分の組織では春闘・秋闘でこんなとりくみをやっている」「みんなの組合ではどんなとりくみをしている？」など積極的に質問・交流したり、「既存のやり方にとらわれず、青年ならではの面白いことをしたい！」など、運動する青年自身が世間の青年たちにも楽しいアピールの仕方を模索する姿も見られました。グループの中では実際に最賃生活体験をしてみようと、10月からとりくみをスター

トさせるなど、組織を超えた青年同士の運動の輪が広がっています。

全国の仲間が奮闘する姿によって励まされた全体討論



みえ青年連絡会再始動の報告をする後藤さん

1日目、2日目をとおしての全体討論では、6単産、10地方組織から18人の発言がありました。方針を踏まえつつ青年独自の発想で生まれた企画の報告や、それぞれの問題意識などが共有されました。自治労連青年部部長の河野夏希さんは「青年自治研集会や自治労連結成30周年企画の『青年未来づくりプロジェクト』実行委員会の活動をとおして全国の仲間とともに強い絆が生まれた。青年自治研集会の実行委員を務めてくれた委員のうち2人が青年部常任委員になってくれた」と発言。みえ青年連絡会の後藤将太さんからは「しばらく休止していた青年連絡会だが、若者アンケートをきっかけに活動を再開。異業種交流会を開催し、様々な業種の青年が集まった。毎月何か企画をやろうとがんばっている」と報告されるなど、青年同士の繋がりにより青年組織が元気づけられる姿が共有されました。

その後の総括答弁では、各地の青年組織のとりくみと強化を支援し、ともに青年の要求実現のため奮闘していこうと呼びかけました。

議案採決ではすべての議案が満場一致で決定され、19年度も青年運動を前進させるため、引き続き各地で仲間とともに奮闘する決意を固めあいました。

話して聞いて、絆が深まった定期大会

大会では、青年企画のためのカンパや、台風15号で被災した千葉県を支援するためのカンパに協力し、仲間同士で支え合う姿も見られました。1日目の夕食交流会も青年同士で楽しい時間を過ごしながらか絆を深めました。大会参加者からは「全体討論の発言の中にあつた『活動は楽しくなければ続けられない』『また次の活動会場で会おうと約束した』などの、繋がりを維持し拡大していく姿に力をもらった」、「最賃の問題は、公務職場における地域手当の地域間格差の問題と同じような構図だと思った。どちらも一律



夕食交流会で親睦を深める

となるようとりくみを進めていきたい」、「分散討論で色々な話が聞けてよかった。学習会のときはお弁当を用意するなどして、組合費はただ払っているだけではない、見える化するようになっているという話が参考になった」、「担い手不足など同じような悩みを共有できた。活動の見える化や企画に参加してもらつ工夫のヒントがもらえ、展望が見えたように思えた」などの感想が寄せられました。



みんなで支え合おう！カンパに協力

た。学習会のときはお弁当を用意するなどして、組合費はただ払っているだけではない、見える化するようになっているという話が参考になった」、「担い手不足など同じような悩みを共有できた。活動の見える化や企画に参加してもらつ工夫のヒントがもらえ、展望が見えたように思えた」などの感想が寄せられました。

青年春闘交流集会

2020年2月22日(土)～23日(日)

ユニオンニュースアカデミー2020

2020年6月6日(土)～7日(日)

全労連青年部第33回定期大会

2020年9月26日(土)～27日(日)

年間予定